

赤十字NEWS

July 2015 Vol.902
<http://www.jrc.or.jp>

7



日本赤十字社

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

赤十字新聞 編集・発行／日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

CONTENTS

TOPICS

- LOVE in Action Meeting(LIVE)
トークイベント 羽生結弦さん
- 60回目を迎えた
ANAからすずらんの贈り物
- 健康豆知識 更年期障害

TOPICS

- 平成26年度決算概要報告
常任理事会開催報告
理事会開催報告
第86回代議員会審議結果公告

SPECIAL

- 全国に広がる赤十字病院

AREA NEWS

- 広島・愛知・長野・静岡・富山・岡山
山梨・栃木・福島・佐賀・兵庫
ネパールへERU第二班出発
クロスプロジェクト
秋篠宮ご夫妻ライトセンターご訪問
病児保育の技術向上を目指して
口永良部島救護活動
赤数字回答
プレゼント

WORLD

- 医療救援活動を支える
縁の下の力持ち(ネパール)
シンガポールの大学生
東日本大震災の被災地訪問
コラム 被爆70年
守るべき いのちと尊厳

何の数字かな?
+赤・数字?

赤十字をイラストと数字で見てみよう



→ 答えは7面をご覧ください



明治19年11月 錦町区飯田町(東京)に博愛社病院設立



磐梯山噴火 明治21年 災害救護



北清事変 明治33年 戰時救護



ネパール地震 平成27年 海外救援



最新医療機器 手術支援ロボット「ダヴィンチ」

今月の出会い



歌手
石川 さゆりさん

歌で届けたい元気と笑顔

「繊細で、思いやりを持っている日本人の心が最近は殺伐としているようで心配です」—5月の全国赤十字大会にゲスト出演した石川さゆりさん。「わらべ歌を親子で歌う体験なども、優しい気持ちを育むのに大切だと思っています」と語ります。大会では「天城越え」などのヒット曲に交えて、「みかんの花咲く丘」などの童謡を大会参加者と一緒に歌い、会場を柔らかな歌声と笑顔で包みました。

東日本大震災では避難所や仮設住宅を訪問し、歌で被災者を励ましてきました。「最初の頃はどのルートをたどって被災地へ向かうのか日赤さんにも相談し、石巻赤十字病院にも行かせていただき

ました。皆さんのが頑張っていらっしゃった姿が印象に残っています」と当時を振り返ります。震災から4年。現在も被災地をミニライブなどで回るボランティアを継続しています。

「大変なことがあって、下を向いているときでも、みんなで声を出して歌うと背中が伸びて、笑顔も生まれてきます。歌にはそんな素敵な力があるんですね。歌を歌う自分の役割を大切に、小さい力ですが、これからも応援していきたい」とこぶしに力を込めました。

PROFILE

熊本県出身。昭和47年にドラマデビューし、翌48年「かくれんぼ」で歌手デビュー。52年の「津軽海峡・冬景色」でレコード大賞歌唱賞など各賞を受賞し、「紅白歌合戦」に初出場。以後、「能登半島」「波止場しぐれ」などのヒット曲を連発。最近ではジャンルを超えた音楽制作にも挑戦し、昨年発表した「X-CROSS II」は日本レコード大賞優秀アルバム賞を受賞した。

平成26年度 日本赤十字社の決算概要を報告します

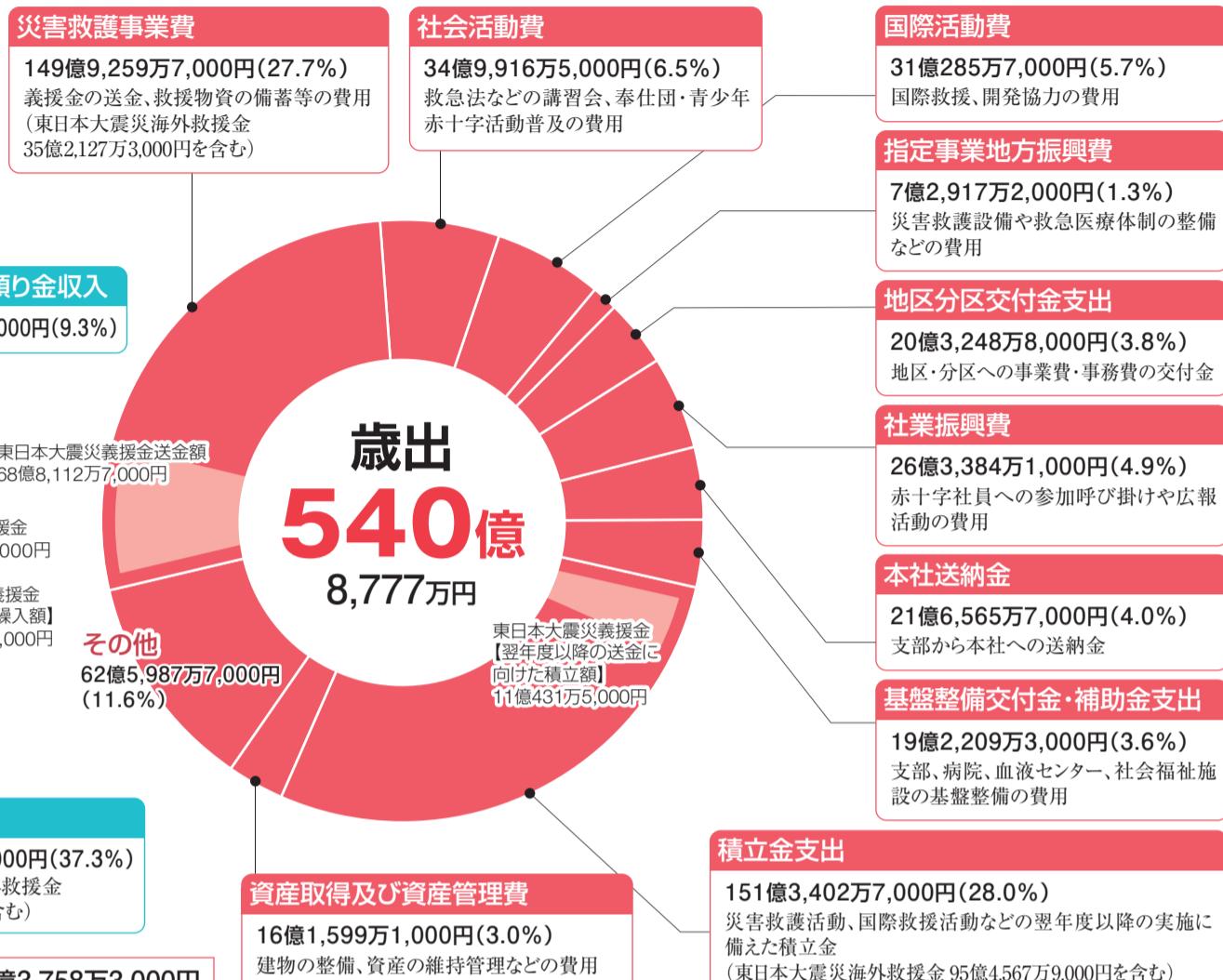
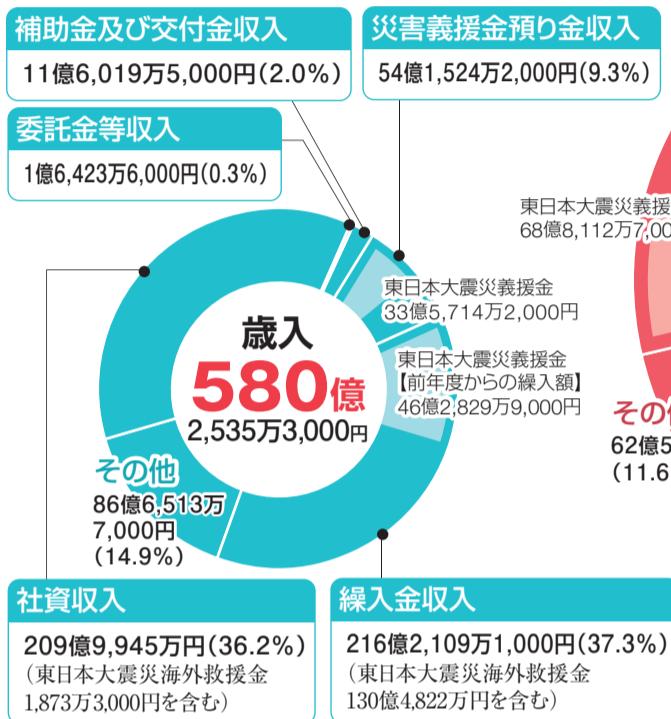
日本赤十字社では、個人、法人の皆さまからいただく社費(会費)や寄付金を主な財源とした一般会計のほか、医療、血液、社会福祉の3つの事業にかかる特別会計を設けています。平成26年度における各会計の決算概要を報告します。

※下記決算額は、千円未満を切り捨てているため、合計額とは一致しません。

一般会計

個人、法人の皆さまからいただく社費(会費)や寄付金を財源に、本社および都道府県支部で実施した災害救護活動、国際活動、救急法などの講習会、ボランティア活動などにかかる歳入歳出は、以下のとおりです。

●合計額には、本社・支部間で重複する額を含んでいます。

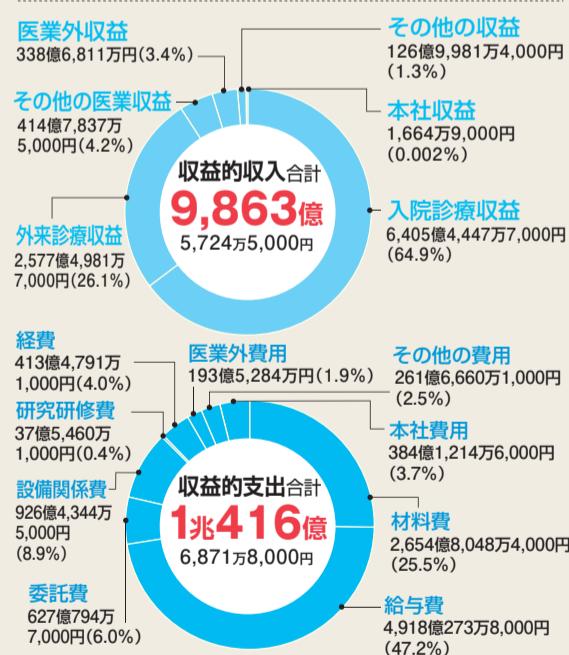


特別会計

医療施設特別会計

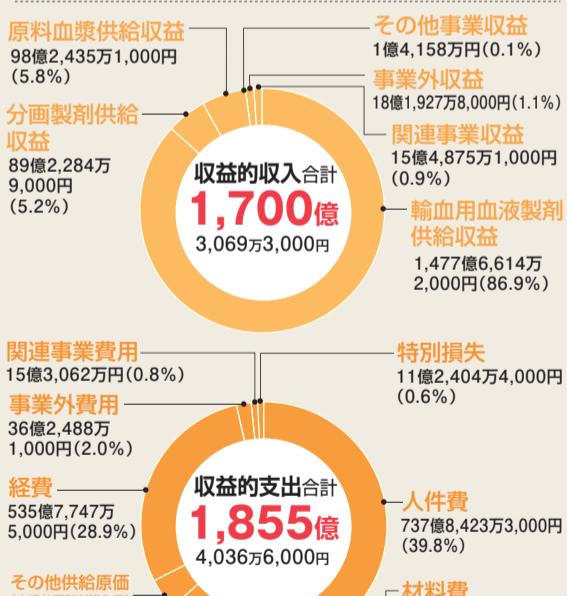
診療報酬を主な財源とする赤十字病院などの運営に伴う収入、支出は以下のとおりです。

●本社・医療施設間の内部取引は除いています。



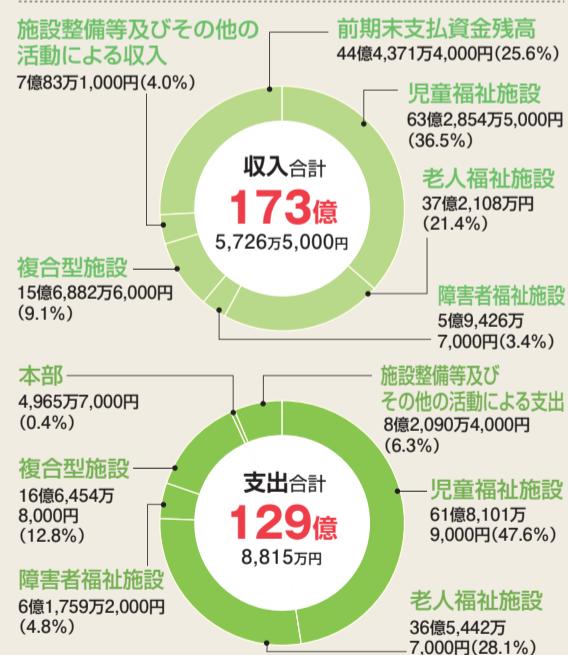
血液事業特別会計

医療機関への血液製剤の供給による収入を主な財源とする赤十字血液センターの運営に伴う収入、支出は以下のとおりです。



社会福祉施設特別会計

措置費収入、介護保険事業収入などを主な財源とする各種社会福祉施設の運営に伴う収入、支出は以下のとおりです。



原案のとおり議決されました。	第2号議案 平成26年度事業報告及び収支 決算の承認について	第1号議案 役員の選出について 理事6名が次のとおり選出されました。 平成27年7月1日 平成27年6月19日、新霞が開ビル「全社協・灘尾ホール」において開催した第86回代議員会における審議結果は左記のとおりです。	第86回代議員会審議結果公告 日本赤十字社
----------------	--------------------------------------	---	--------------------------

1 第86回代議員会に付議する事項について （役員の選出、平成26年度事業報告及び収支決算の承認）	2 資金の借入について （日本赤十字社長崎原爆病院の増改築工事にかかる資金の借入）	3 平成27年6月19日、全国社会福祉協議会会議室新霞が開ビルにおいて平成27年度1回目の理事会が開催されました。 審議結果は左記のとおりです。
また、常任理事会の理事の互選が行われ、田所憲治氏が選出されました。	また、ネパール地震災害への対応、東日本大震災復興支援事業に対する福島県支部の奉仕団活動、ネパール地震災害での日赤医療班の活動及び予算の補正にかかる社長専決事項の決定状況についてそれぞれ報告されました。	また、常任理事会の理事の互選が行われ、田所憲治氏が選出されました。

1 予算の補正について （ネパール地震救援金にかかる一般会計歳入歳出予算の補正）	2 理事会及び第86回代議員会に付議する事項について （日本赤十字社長崎原爆病院の資金の借入）	3 理事会及び第86回代議員会に付議する事項について （役員の選出、平成26年度事業報告及び収支決算の承認）
第3回の常任理事会が開催されました。 平成27年6月18日、本社において平成27年度第3回の常任理事会が開催されました。	平成27年6月18日、本社において平成27年度第3回の常任理事会が開催されました。	平成27年6月18日、本社において平成27年度第3回の常任理事会が開催されました。



全国に広がる赤十字病院

日本赤十字社 社会の期待に応えて~

災害医療

災害時に日本赤十字社が派遣する救護班は、医師・看護師・事務員など6人で構成。全国に498班組織されており、日頃から訓練を重ねています。被災地で仮設診療所として機能するd-ERUは全国に20台、災害現場で用いられる医薬品や診断用具を取り揃えた医療セットは各病院に配備されています。また、応急手術が可能な設備を持った大型車両を配備している病院もあり、災害時の救命率向上に力を発揮しています。



救急医療

全国に、高度救命救急センター5施設を含む34の救命救急センターを有し、24時間体制で心筋梗塞や脳卒中、交通事故などの重篤患者を年間約130万人受け入れています。また、救急医療の専門医と看護師を乗せ救急現場に向かう「空飛ぶ救急治療室」ドクターヘリを5つの病院に配備。搬送時間の短縮だけでなく、救急現場から救命治療を開始することによる救命率の向上、後遺症の軽減になくてはならない存在になっています。



地域包括ケアの取組



高齢化が進む山間部や無医地区で医療や介護を一体的に提供する病院や地域包括ケアに取り組んでいる病院もあります。

多くの赤十字病院は、訪問看護ステーションやデイケア、介護老人保健施設を併設し、医療・介護の連携を促進しています。病院付設のこれらの施設には、万が一の時の医療サポートも整備されており、安心して来所・入所いただけます。

また、高齢者施設の訪問や、高齢者宅の訪問診療など地域の医療ニーズにも応えています。

赤十字活動の拠点

赤十字病院では、赤十字の各種講習も受講できます。「救急法」は、日常生活における事故防止や手当の基本・心肺蘇生の方法などを学べる講習です。「健康生活支援講習」では、高齢期を健やかに迎えるための健康増進の知識や高齢者支援の方法、介護技術が習得できます。

地域住民を対象とした催しも行われています。病院を通じて子どもたちに赤十字を知ってもらう体験型イベントなどが好評です。

このような講習・イベントは、支部、病院、ボランティアが一体となって開催しており、赤十字活動の拠点となっています。



スマホゲームの勝利を目指し 献血へGO!



スマホの仮想現実ゲーム「Ingress」を通じて、献血の輪を広げていく活動「REDFACTION(レッドファクション)」がブームに。5月には広島を舞台に日本で初開催され、6月には関東甲信越ブロックの50の献血ルームを会場にしたイベントも行われました。



体調などが原因で献血できない方も、献血推進ボランティアとして活動すれば1点を獲得。ゲームに参加できます

Ingressは2チームが仮想空間で陣取り合戦をするゲーム。REDFACTIONでは、ゲーム参加者が献血を1回するごとに1点が陣営に入るというルールで行いました。5月23日から31日まで広島県内の献血ルームで行われたイベントには60人が参加。主催した國由哲哉さんは「久しぶりに自発的に献血するきっかけになりました」とイベント成功の喜びを語りました。

飯山赤十字病院に「医療療養病棟」開設



飯山赤十字病院(長野県飯山市)に新しく医療療養病棟(最大44床)が開設され、6月1日にオープニングセレモニーが行われました。



セレモニーには飯山市の足立正則市長(左)を迎え、古川賢一院長とテープカットを行いました

療養病棟は急性期治療が終了して症状の安定した患者さんを、長期に受け入れる病棟。在宅での療養中に在宅療養が困難になった場合などの一時受け入れも可能です。

県北部の医療圏には療養病床が少なく、かねて長野県から設置の要望が寄せられていました。そこで「平成26年度長野県地域医療介護総合確保基金事業(医療分野)補助金」を活用し、休床中の病棟を基準に適合するよう改修。医療療養病棟としてスタートしたものです。

看護専門学校で災害救護訓練 学生がリーダーシップ発揮



訓練は、いのちの尊さや災害時に求められる能力などについて考える機会にもなります

富山赤十字看護専門学校では、災害看護論の授業の一環として、災害救護訓練を行いました。3年生が救護員役となってリーダーシップをとり、2年生は災害ボランティアとして3年生とともに行動。1年生は傷病者役になりました。3年生は「災害救護における看護の役割と実践する素晴らしさを実感することができました」と感想を述べていました。

初開催! 自動車レースでチャリティーオークション



オークション商品はドライバーや監督の直筆サイン入り。レアグッズに会場は大興奮

岡山県支部は5月23、24の両日、岡山国際サーキットで行われた自動車レース「スーパーフォーミュラ第2戦」で、チャリティーオークションを初開催。国内外の有名ドライバーのヘルメット・バイザーやスポーツタオルなど約20品が出品されました。落札金額は、災害多発国での給水災害対応キットの整備に役立てられます。

献血コピー「ち、のち、いのち」 TCC賞審査委員長賞に



東海北陸ブロック血液センターの「第2回献血推進ポスター・デザインコンペティション(ポスター・コンペ)」(平成25年度実施)で最優秀賞を受賞した安藤真理さんの作品コピー「ち、のち、いのち。」がこのほど、東京コピーライターズクラブが主催する「2015年度TCC賞」で審査委員長賞を受賞しました。



TCCはコピーライターやCMプランナーなどの団体。前年度に発表された広告作品を対象に毎年表彰を行っています

ポスター・コンペは、将来の献血を支える若年層を対象に平成24年度から開催しているもの。安藤さんからは「TCC賞は日本で一番大きいコピーの賞です。そこで評価してもらえたのはすごいこと。このような機会につなげてくださり、ありがとうございます」との喜びの声が届いています。

袋でご飯が炊けるんです! スーパーで炊き出し実演・試食会



静岡県支部はスーパー・マーケットのアピタと共同で「減災プロジェクト」を展開中。今年3月から5月にかけては包装食袋(高密度ポリエチレン製の袋)を使った炊き出しの実演会を県内5店舗で実施しました。



災害に備えて、「1人7日分」の食料を各家庭で備蓄しておくよう国は推奨しています

5月24日にアピタ大仁店で行われた実演会では、普段使っているお米を包装食袋で炊いたり、ホットケーキミックスを作る蒸しパンの炊き出しを地域赤十字奉仕団が実演。来場者には炊き出しレシピ集「炊き出し名人」も配布しました。

試食した方からは「袋でご飯を炊いたり、蒸しパンが作れるなんてびっくり!」「レシピ集が分かりやすい」「自治会の訓練で取り入れたい」との感想が聞かれました。

名古屋オーシャンズ開幕戦で「赤十字デー」!



この日の試合のチケットには日赤の救護服を着用した選手の写真が印刷されました

愛知県支部とパートナーシップ協定を結んでいるプロフトサルチーム、名古屋オーシャンズのホーム開幕戦が5月10日、名古屋市内で行われました。愛知県支部は会場内で「赤十字デー」のイベントとして赤十字活動のPRや献血などを実施。献血には観客だけではなく、チームスタッフやサテライトの選手にも協力いただきました。

新メンバー迎えパワーアップ! 地域と世界に目を向けよう!



赤十字の理念に基づき、いのちと健康を大切にする活動や地域・世界のためのボランティア活動に取り組む青少年赤十字(JRC)。春には全国のJRC加盟校で、新メンバー登録式や歓迎会が開かれました。

兵庫県中学・高等学校JRC協議会は5月6日、加盟式と合わせて被災者支援ボランティアについて学習。グループごとに「自分たちにできる支援活動」を発表し合いました。山梨市の市立後屋敷小学校と八幡小学校で5月25日に行われた登録式には、市長や教育長なども参加。メンバーは、地域の祝福の中で新たなスタートを切りました。学校の垣根を超えた「新入生歓迎会」を開催したのは栃木県JRC高等学校連絡協議会。5月31日の歓迎会には約150人のメンバーが集い、交流を深めました。

ネパール地震海外救援金を呼び掛け

世界に目を向けたボランティア活動として、各地のJRCメンバーがネパール地震の救援・支援活動などに役立てるための「海外救援金募金」に取り組んでいます。福島県北地区の高校生メンバー15人は5月9、10の両日、JR福島駅東口を中心に街頭募金を実施。佐賀県では6月6日、高校生メンバーと一緒に在住のネパール人留学生の総勢82人が街頭で募金を呼び掛けました。



2日間に寄せられた募金51万1796円は福島県支部に寄託(福島)



八幡小学校では各学年代表が署名票に名前を記入しました(山梨)かり、刺激になった(声)(栃木)



参加のネパール人学生は「日本のひととの優しさを感じた」(佐賀)



東日本大震災の支援で自分たちに何ができるかを発表(兵庫)

口永良部島噴火災害

救護班、こころのケア班、奉仕団が支援活動

鹿児島県熊毛郡屋久島町口永良部島の新岳で5月29日に激しい噴火が発生し、全島民の島外避難指示が出されたことを受け、鹿児島県支部は医療救護班1班を派遣しました。

鹿児島海上保安部との相互協力協定に基づき、同保安部所属の巡回船で住民避難先の屋久島へ派遣された救護班は健康相談窓口を翌30日に開設し、31日までさまざまな症状を訴える方の診療を行いました。また、救護班と入れ替わりに到着したこころのケア班(鹿児島赤十字病院の看護師2人)も、避難住民の健康相談などを実施。屋久島町の赤十字奉仕団も地元の食材を使った炊き出しや、声かけなどを行いました。

避難生活の長期化が予想される中、日本赤十字社では被災者の支援へ向けた義援金の受け付けを行っています。皆さまのご協力を待ちています。



地元で獲れた魚で作ったさつま揚げやシカ肉の空揚げなども提供。「温かい食事ありがとうございました」との声が聞かれました

屋久島町口永良部島新岳噴火災害義援金

受付期間 平成27年12月25日(金)まで

受付口座 ゆうちょ銀行 口座記号番号「00900-6-208120」
口座加入者名 日赤口永良部島噴火災害義援金

*窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料は免除されます。受領証をご希望の場合は、振替用紙の通信欄に「受領証希望」と明記のうえ、お名前、ご住所、電話番号を記載してください。
※銀行振り込み、インターネットでも受け付けています。詳しくは日赤ホームページをご覧ください。お問い合わせは、日本赤十字社本社組織推進部(TEL: 03-3437-7081)まで。



3000人

一日に輸血を受ける患者数(国内)

病気やけがの治療のために一日約3000人が輸血を受けています。

輸血が必要になるのはどんなときでしょう?「交通事故などでけがをして大量出血した場合」などのイメージを持つ方も多いと思います。ところが、実際には輸血用血液製剤の大半は病気の治療に使われています。その中でも悪性新生物(がん)の治療に最も多く使われており、そのほか、血液疾患、循環器系・消化器系の疾患などの治療にも使われています。

輸血を受ける人の約85%は50歳以上。この年齢層が増えていく今後は、血液需要も増加することが見込まれています。血液は人工的に造ることも、長期保存することもできません。輸血を必要とする患者さんに血液を安定して届けていくには、皆さまの献血への継続的な協力が不可欠なのです。

プレゼント

今月の出会いに登場いただいた石川さゆりさんのサイン色紙を3名様にプレゼントいたします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。



- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS7月号を手にされた場所(例/献血ルーム)
- ⑥7月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか?(いくつでも)
 - ①今月の出会い ⑥LOVE in Action Meeting(LIVE)
 - ②トーケイイベント 羽生結弦さん ④60回目ANAからすずらんの贈り物
 - ③健康豆知識(更年期障害) ⑤平成26年度決算概要報告
 - ④理事会・常任理事会開催報告・代議員会審議結果公告
 - ⑤特集 全国に広がる赤十字病院 ①エリアニュース
 - ⑥ネパールへERU第二班出発 ⑦クロスプロジェクト
 - ⑦秋篠宮ご夫妻ライトセンターご訪問 ⑩病児保育の技術向上を目指して
 - ⑧口永良部島救護活動 ⑨赤数字 ⑩プレゼント ⑪ワールドニュース
 - ⑫赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしています。

応募先 ● 郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社企画広報室 赤十字NEWS7月号プレゼント係
FAX/03-3432-5507
メール/koho@irc.or.jp(件名「赤十字NEWS7月号プレゼント係」)

応募締切 ● 7月27日(月)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



ネパール地震救援活動

「暑さに負けず頑張って!」

大塚製薬から医療チームにポカリスエット!!

日本赤十字社はネパール地震の救援活動に保健医療チームの第2班(班員16人、チームリーダー大阪赤十字病院 中出雅治医師)を6月2日から派遣しています。この派遣に際し、大塚製薬株式会社から同社の清涼飲料粉末ポカリスエットが寄贈されました。



川脇常務執行役員(中央右)と日赤大塚副社長(同左)を囲む、保健医療チーム第2班のメンバー

被災地は気温が45度に達するなど猛暑が続いている。暑さの中で活動するメンバーの水分補給、体調維持に役立つことが期待されています。寄贈式で同社の川脇信久常務執行役員は「ポカリスエットがみなさんの活動の役に立てば嬉しい」と激励。看護師の長尾佳世子さんは「できるだけ早く多くの人を助けたい」と決意を語りました。

赤十字応援活動「クロスプロジェクト」スタート 第一弾として本社で講演&コンサート



講演に引き続き、橋本氏と日赤近衛忠輝

文化人による赤十字の応援活動としてスタートした「クロスプロジェクト」。その最初の取り組みとして6月15日、読売新聞の橋本五郎特別編集委員による講演などが日本赤十字社本社で開かれました。

橋本氏は「常に全力であれ」「人を嫌いになってはいけない」など自身の生きる姿勢について講演。また、歌手の川口京子

講演に引き続き、橋本氏と日赤近衛忠輝さんとピアニストの長谷川美佐子さんによるミニコンサートも開かれ、戦時救護を実

施した赤十字看護婦を歌った「白百合」「婦人従軍歌」や故岩谷時子氏の未発表の詞による「大人と子どものセレナーデ」などが披露されました。この曲は5月に俳優の西田敏行さんらによってCD化。印税は日赤に寄付される予定です。

秋篠宮ご夫妻が 神奈川県ライトセンターをご訪問

秋篠宮殿下と日本赤十字社名誉副総裁を務める同妃殿下のご夫妻が6月9日、日本赤十字社が指定管理者として運営する視覚障がい者施設神奈川県ライトセンターを訪問されました。

ライトセンターは、点字と録音による情報提供や相談・訓練、スポーツ、レクリエーションなど視覚障がい者のための総合的な事業を行う施設。700人を超える赤十字ボランティアが運営を支えているのも特徴です。

秋篠宮ご夫妻は点字図書館などを見学され、案内した職員の説明にご質問をされる場面も。体育館では、太極拳のクラブ活動に視覚障がい者と晴眼者(目の見える方)が一緒に参加している様子を熱心にご覧になりました。

病児保育の技術向上を目指して 富山県内16施設32人の担当者が交流

日本赤十字社が運営を受託している富山県立乳児院(富山市)は5月23日、富山県内の病児・病後児保育担当者を対象とした交流会を富山赤十字病院で開催。県内の16施設から32人の担当者が参加しました。

同交流会は、病気を抱える子どもの保育に必要な知識や技術の向上と、職員同士の交流を深めることを目的に、年に一度開催されているものです。今年は富山赤十字病院の津幡小児科部長が、子どもの外観や呼吸状態、皮膚色などから、病気の重篤度を迅速に判断する方法について講演。その後、参加者はより良い病児・病後児保育に必要な実践や課題についての意見交換を行いました。



子どもたちのために、真剣なまなざしで情報共有する参加者

WORLD NEWS



ネパール地震災害

医療救援活動を支える縁の下の力持ち

8700人を超える死者を出したネパール地震で日本赤十字社は、最大の被災地となつたシムデュルバーレチョーク郡のメラムチ村に保健医療チームを派遣。同村唯一の診療所の支援活動のほか、医療支援の届かない山間部の巡回診療や保健衛生、こころのケアなどを発災から2ヶ月経過した現在もなお展開中です。これらの活動の中心は医師や看護師など医療スタッフですが、海外の医療救援では資機材の運搬や関係機関との協議・調整、物品調達など幅広い役割を担う管理要員の存在が不可欠です。5~6月にかけて現地で活動した3人に話を聞きました。

**国際物流の経験を生かし
資機材を輸送**
大阪赤十字病院 河合謙佑さん



医療活動のための資機材の空輸では、各国からの救援が殺到した結果、カトマンズ空港への着陸が困難になるという事態が発生しました。こうした中で着陸枠を確保するため、ネパール政府や空港関係者などと協議し、情報収集を行うのが最初の仕事でした。

資機材は4ントントラックで10台分。大量の物資を、空港から日赤の活動地メラムチ村まで安全に輸送しなければなりません。トラックとドライバーを手配するとともに、輸送中のトラブルを回避するため、道路状況や天気予報、危険情報を考慮したルート確認などを事前に調査し、本番の輸送に備え

ました。

大学時代から国際救援活動に対する思いがあり、将来の救援活動に生かすために国際物流の企業で経験を積み、日本赤十字社に入社。2013年11月から約1年間国際赤十字・赤新月社連盟（以下、IFRC）のクアラルンプール事務所（マレーシア）に出向した際には、ネパールで地震発生時に備えた調査を行ったこともあります。過去の経験や知識、その時に築いた人脈が役に立つたと感じています。

地域との信頼関係が不可欠
本社国際部 上野梨香さん

保健医療チームのスムーズな運営のためのさまざまなサポートを行うのが事務管理要員の仕事です。具体的には、現地通訳を探したり、移動のための車を手配したり、通信手段の確保などを行いました。

特に初期は通信手段の確保に苦労しました。被災地では、最初の2週間はインターネットが使えず、携帯電話もなかなかつながりません。その結果、ネパール赤十字社

やIFRCの災害対策本部との連絡に支障を來したことも。他国の赤十字社との間で被災地ニーズの情報を共有し、連携した支援を実施していく上で、通信手段の確保は大きな課題になりました。

被災地での活動は、地域の皆さんに私たちを受け入れていただくことが不可欠です。現地の事情に詳しいラムさんという方がスタッフに加わったことで、地域との信頼関係がスムーズに築けました。その結果人びとのニーズや反応をきめ細かく知ることができ、また日赤の活動方針を伝えることもできました。メラムチ村での活動は、地元の診療所との連携を基盤に、学校や周辺の地域診療所などへの支援を行っていますが、地域医療に合わせた活動ができたことで、地元の人びとも受け入れられたと感じています。

メンバーが力を發揮するために
熊本赤十字病院 黒田彰紀さん

事務管理要員は、医師や看護師が医療支援に集中できるよう、診療以外のすべてに責任を負います。技術関係では、水や



ラムさん(右)と談笑する上野さん(左)と黒田さん(中)

電気の確保、居住環境の整備などを担当します。

長期間に及ぶ医療活動では、各メンバーのストレスはとても大きくなります。特に、発災後すぐに活動する第1班のチームの活動環境は過酷です。ネパールの派遣でも、寝る時は寝袋で雑魚寝状態。ゆっくり休むこともできませんでした。

今回の活動では初めて浄水機材を使用して川から水を引き、ろ過してシャワーに利用。メンバーに大変喜んでもらいました。被災者に現地で最善の支援を届けるためには、チームメンバーが心身の安定した状態を維持できるような後方支援も大切です。

また、地元ボランティアやスタッフの協力により、テントの設営や資機材の運搬が可能となりましたが、ネパールの方は「もっとやることはないか？」と積極的に声をかけてくれました。休みの日に手伝いに来てくれることも。嬉しかったですね。地元の人たちの協力や笑顔が私たちの活動を支えてくれました。

本赤十字社が支援を続けている金石市の仮設住宅では、住民のレクリエーションとして企画されたお茶会やノルディックウォーキングを取材。同大学のニン・ラチャエルさんは「大変な災害の中で医師、看護師の使命をまつとうする姿に感銘を受けました。仮設住宅では、辛い状況にも関わらず皆さんがとても明るかったことが印象的でした。今回撮影した写真や映像を通じて、被災地の復興や、被災者が直面している課題を伝えたい

です」と話しました。



金石市の仮設住宅ではお茶会で被災者と交流

東日本大震災

被災地の今をシンガポールへ シンガポールの大学生ら12人が被災3県を訪問

東日本大震災の被災地を取材するためシンガポール工科大学の学生ら12人が来日。10日間にわたり、福島県、宮城県、岩手県などを訪問しました。来年3月、シンガポールでは東日本大震災の展示イベントが予定

されており、今回の取材はその開催に向けたものです。

宮城県では、石巻市の医療・救護活動を牽引した石巻赤十字病院を訪れ、救護活動に携わった職員から説明を受けました。日

892人と患者約200人が死亡しました。

国際赤十字にジュネーブ条約違反の調査を依頼

ジュネーブ条約（赤十字条約）の最も基本的な原則は、「戦闘に無関係な人は攻撃から区別し、傷ついた人は救護する」こと。原爆の死傷者の大半が市民であったことを目にした永野氏は、東京の日赤本社宛に次のような電報の案文を作成しています。

「八月九日長崎市空爆に付使用せる原子爆弾は其の被害甚大にして被害者の大部分は非戦闘員なり（中略）至急国際赤十字に対し現地調査方御配慮を乞う」（泰山弘道『完全版長崎原爆の記録』東京図書出版会）

この電報は救援の要請ではなく、ジュネーブ条約の違反行為の調査を求めるものでした。結果としてこの電報は日赤本社に送信されませんでしたが、1963年にはいわゆる原爆訴訟東京地裁判決が「原爆投下は国際法に違反

する」ことを、1996年には国連の国際司法裁判所が「核兵器の使用は国際人道法の基本原則に反する」ことを明らかにしています*。被爆直後の長崎で救援活動の司令塔となつた永野氏による電報は、核兵器の非人道性のみならず、その国際法上の違法性を最も早く社会に訴えようとした貴重なメッセージといえます。

*国際司法裁判所は、国家存亡の危機下での核兵器の使用が違法か合法かの判断は差し控えている。



現在も被爆遺構として残る長崎県防空本部跡（立山防空壕）

被爆70年 守るべき いのちと尊厳
—核兵器のない世界へ—

救援の司令塔からのメッセージ ~1945年8月9日、長崎~

「皆を知事室に集め、『それでは』と言いかけたところに、佐世保市長の小浦君が来て、室に入れたら、『広島はエライことになりましたね』という。『今、ちょうど、そのための会議を始めようとしたところだ』と言った途端に、電灯が消えた。壕の外に出て見た。遙か向こうの浦上方面一面が、真黒な煙に包まれ、赤い火の手はまだ見えていたが、濛々として大火事となっており、ずっと高いところまで雲のような煙が立ちこめていたのである」（『長崎県警察史 下巻』）

これは1945（昭和20）年8月9日、長崎への原爆投下時、県知事で日赤長崎県支部の支

部長でもあった永野若松氏の証言です。

爆心地から約2.7km離れていた県の防空本部（立山防空壕）にいたため原爆の直接的な被害を免れた永野氏は、徐々に明らかになる原爆被害の惨状の報告を受け、九州各县に救護班の派遣を要請するなど、不眠不休で救護活動を展開しました。広島とは対照的に、長崎では行政の指揮命令系統が機能を続けたことが不幸中の幸いでした。しかし、従前から救援の拠点とされていた旧長崎医科大学付属病院は、屋上に赤十字マークを掲げていたにも関わらず、鉄筋コンクリートの外郭を残して壊滅。内部は全焼し、学長をはじめ職員・学生